

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	梅北 直昭
主な担当科目	ポピュラー作曲・編曲法④,ミュージックセオリー(中級),鍵盤ソルフェージュ②_A,作曲・編曲法 I_C,聴音・視唱ソルフェージュ①_A,副科グループ レッスン_A,副科グループレッスン_B,副科グループレッスン_D,作曲
2024年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	学生の学修意欲を引き出し、必要な知識や技能、不足部分を的確に把握し、最適なタイミングで学びの機会を提供することを重視しています。加えて、教育は一方の伝達ではなく、教員も学び続けることで成り立つものだと考えています。学生との相互作用を通じて新たな視点を得ながら、学生が主体的に学び成長できる環境を提供できたらと考えます。
2024年の教育に関する自己評価	学生それぞれの力量や実現したいことを見極め、目標に寄り添い、成長を引き出す授業を心掛けました。多様な背景を持つ学生に対して、継続の重要性を伝えつつ、学生が主体的に学び、自らの可能性を広げられるよう支援しました。今後も学生の目標達成を支え、適切な指導とサポートを行い、成長を後押しする教育を実践していきます。
2024年のFD活動に関する自己評価	新しい時代の大学人には、柔軟性と適応力が求められます。コロナ禍を経て、ICTやオンライン教育の活用が重要となる中、これらを積極的に取り入れた授業展開を行いました。加えて、これからの時代をしなやかに生きていくためには、多様な学修環境に対応し、学生一人ひとりの学びを促進する教育が必要です。今後は、更なる学びの向上を目指し、新たな提案や行動を通じて、教育の質を向上させていきたいと考えています。
授業改善のために 取り入れた研修内容	次世代に向けた教育方法を考えるにあたり、AIやICTを活用し、学生の多様性に対応した柔軟なアプローチを取ることが重要だと感じました。学生の視点に立ち、彼らが求めるものを的確に把握し、時代の変化に敏感に対応することが求められます。これまでの価値観と新しい技術のバランスを保ちつつ、教育内容や方法を進化させることを念頭に取り組んでいきます。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2057 教員名:梅北 直昭

1)アンケート結果に対する所見

授業内容や進行に対しての評価として、特に実践的な演習やフィードバック体制については改善の成果が見られたと感じる。一方で、課題の難易度や進行スピードに対する意見もあり、個々の学修ペースに配慮した工夫が引き続き求められていると感じた。作曲の授業では、より細かい段階でのサポートが必要であり、演習と解説のバランスの再検討が課題として挙げられる。

2)要望への対応・改善方策

昨年度の反省を踏まえ、課題の分量は授業の目標や学修負担とのバランスを取りつつ調整し、シラバスにも課題の位置づけや提出回数を明確に記載した。また、ソルフェージュや作曲においては、演習を段階的に構成し、課題の目的や評価基準をより具体的に提示するよう改善を図った。個別フィードバックの迅速化にも引き続き注力し、学生が安心して学べる環境づくりを意識し、疑問や不安をその場で解消できる体制を整えることが今後も必要であると考えている。

3)今後の課題

多様なバックグラウンドを持つ学生がさらに増加する中で、授業内容や指導方法の柔軟性が今後も重要になると考える。特に留学生への支援として、多言語での補助資料の充実や、日本語が第一言語でない学生向けのサポート体制の強化が求められる。また、学生同士の協働的な学びを促進するために、グループワークやプロジェクト型の課題をより体系的に導入する予定だ。教員自身も研修や情報共有を通じて、異文化理解と多様性への対応力を高め、全ての学生にとって参加しやすく、意義ある学びの場を提供できるよう努める。

以 上